



令和6年度 ふくしまの未来をひらく読書のカプロジェクト

# 読書活動支援者育成事業研修会

令和6年6月18日（火）郡山市労働福祉会館大ホール 参加者 44名



## 実践発表 「子どもの感性を磨き、読書する楽しさと喜びを実感できる 学校図書館をめざして」

郡山市立守山小学校 学校司書 菅野 睦子 氏

- 学校図書館の成り立ちと法律、役割について。
- 季節や学校行事、教育課程、給食など学校に関する様々な行事等とコラボレーションして、学校図書館へ足を運んでもらう工夫をしている。
- 学校図書館は、1人になりたい子どもにとっては隠れ家であり、教室にいられない子どもにとっての避難場所といった新たな役割も加わっている。
- 学校司書は本と子どもをつなぐ大事な役割をしている。

### 《参加者の声》

- 「どうすれば図書室に来てくれるのか」が難点でしたが、アイデアあふれる図書館運営を参考に図書館を楽しい場所にしていきたいです。
- 司書の役割は人と本をつなぐことにあるということから、すばらしい図書館づくりをされていることに感銘しました。



## 講 話 「語り継ぐこと」～笑顔あふれる浪江町から震災・そして今を語る～ 浪江まち物語つたえ隊 八島 妃彩 氏

- 浪江町で昔話の語り部だった佐々木さんと避難先で出会い、佐々木さんの原稿を元に、広島「いくまさ鉄平 氏」に紙芝居にいただいた。
- 原発があるフランスでも紙芝居を披露し、国境を越えて、たくさんの方に共感していただいた。
- この物語を通して、大きな地震があったことや原発事故があったこと、その地域で暮らす人の想いを理解して欲しい。

### 《参加者の声》

- 震災の記憶が薄らいでいく中、語り継ぐことの大切さと難しさがあるが、紙芝居という形は、次の世代へ引き継ぎやすい形式だと思いました。
- 東日本大震災を決して風化させることなく、被災者の方に伝えてもらえることはとても大切だと思います。
- 紙芝居を人の声と土地の言葉で語るからこそ胸に迫るものがあります。



講義・演習 「読書でコミュニケーション」  
～本の紹介ゲーム「ビブリオバトル」体験講座～  
元小野町地域おこし協力隊 穴戸 佳織里 氏

- ビブリオバトルは、好きな本を持って集まり、5分間でその本をそれぞれ紹介し合い、2～3分の質問タイムの後、どの本が読みたくなったかを投票するものである。
- 投票の基準は、「話を聞いてどの本が読みたくなったか」で、人を選ぶのではなくチャンプ本を選ぶ。

《参加者の声》

- 好きな本を語る喜びを、子どもたちへ教えたいです。
- 同じ本でも人によって感じ方の違いや受け取り方の違いがあることに気づきました。
- 「ビブリオバトル」を初めて知りました。大変勉強になりました。体験は大事ですね。
- 実際にビブリオバトルをすることで、人を通して本を知り、本を通して人を知ることができました。



研修全体を通して

- 今回の研修は体験型で緊張しましたが、分かりやすく大変参考になりました。
- ボランティア活動をされている方と情報交換ができて、とても有意義な時間を過ごすことができました。
- 読書に親しむ、親しみやすくなる環境など今回の講座で得た知識を役立てたいです。
- とてもアットホームな研修会で楽しかったです。
- 初めての参加でしたが、参加してよかったと思いました。本に興味を持ってもらえるよう読み聞かせを続けたいと思いました。
- ビブリオバトルや司書の役割紹介など学校の図書館の取り組みを、運動会や学年行事のようにできたらいいなと思います。

